

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2425 号

Triple-stapled quadrilateral anastomosis: a new technique for creation of an esophagogastric anastomosis

(新しい食道胃管吻合法：3本のリニアステープラーによる四角吻合)

石橋 雄次 (いしばし ゆうじ)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、食道切除術における食道胃管吻合の新しい吻合法である。3本のリニアステープラーによる四角吻合 (Triple-stapled quadrilateral anastomosis: TRIQ 吻合) の開発とその術後成績を明らかにした臨床的に意義ある論文である。

本吻合法はリニアステープラーを用いた食道と胃管の側々吻合で、手技は簡便で容易である。食道断端と胃管の先端をそれぞれ電気メスで切開したのち、食道後壁と胃管後壁に2本支持糸をかけ、支持糸の間を縦方向にリニアステープラーにて切離し、V字型の吻合部後壁を形成する。前壁は計画的に2本のリニアステープラーで閉鎖し、この際前壁が逆V字型になるように閉鎖する。これにより前壁、後壁がそれぞれV字型に形成され、吻合口は大きな四角となる。ステープラーラインは漿膜筋層縫合にて埋没し、大網で吻合部を全周性に被覆する。2014年1月から2017年2月まで本吻合を施行した60例の患者を対象とした術後成績では、年齢中央値67.8歳、術前化学療法を施行した症例は43例、手術時間中央値は474分、出血量中央値は104ml、平均術後在院日数は23日であり、Clavien-Dindo II以上の縫合関連合併症は1例も認めなかった。この成績は過去に報告された他の吻合法と比較し、非常に良好な結果であった。

TRIQ 吻合は簡便かつ安全な吻合法であり、よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。